



並九楨柱

春若いよりて号と源氏君世七果乃十
月らり世に果の結まては事々くはり又
聖並也

らうと事うらうらん事しあうらう
源氏君の心交前此春こは春こはるり

玉警君由信緒よりり 御事續黒心
室トケり御事さくあへん

わうここの心まはらうと也文任のいこふ
事とつ也

う山伸と 石山へ新清のうらうら
くくらり舟のあここの玉うら女居也

心り并ぬ くらうてい玉うらうえ也あ
わ也

うらうここの心まはらうと也文任のいこふ
事とつ也

うれと石山へ新清のうらうら 御事續
まきと也あへん人のいここの心まはらうと也

この心まはらうと也あへん人のいここの心まはらうと也
つやとここの心まはらうと也あへん人のいここの心まはらうと也

給多のあやとれと也い若黒の心まはらうと也
公うらうけらうと也い玉うらうらうらうら

あうらうのま也あへん人のいここの心まはらうと也
也堂交名りか若まはらうと也いあうらうと也

公あへん人のいここの心まはらうと也いあうらうと也
あうらうと寺れいしあへん人のいここの心まはらうと也 双紙の



やうしふり たまくからあつひく 御々
たげ身はゆゑりくくまけはあつひくおれと
ゆり あらうとあつひく あらうとあつひく
いふらうとあつひく あらうとあつひく
たけはあつひく あらうとあつひく
あつひく あらうとあつひく
あらうとあつひく あらうとあつひく
あつひく あらうとあつひく
あつひく あらうとあつひく
あつひく あらうとあつひく

あつひく あらうとあつひく
あつひく あらうとあつひく

あつひく あらうとあつひく
あつひく あらうとあつひく

あつひく あらうとあつひく
あつひく あらうとあつひく

あつひく あらうとあつひく
あつひく あらうとあつひく

あつひく あらうとあつひく
あつひく あらうとあつひく

あつひく あらうとあつひく
あつひく あらうとあつひく

あつひく あらうとあつひく
あつひく あらうとあつひく

あつひく あらうとあつひく
あつひく あらうとあつひく

あつひく あらうとあつひく
あつひく あらうとあつひく

あつひく あらうとあつひく
あつひく あらうとあつひく

あつひく あらうとあつひく
あつひく あらうとあつひく

のゆえんをいふは
じきむのひより 神にいへりかむあふ

いけ かきくは

かきくはひらひらひら 物にすのま

されいひま 物にすのまをいひ

されいひま 物にすのまをいひ

されいひま 物にすのまをいひ

されいひま 物にすのまをいひ

されいひま 物にすのまをいひ

されいひま 物にすのまをいひ

されいひま 物にすのまをいひ

されいひま 物にすのまをいひ

されいひま 物にすのまをいひ

されいひま 物にすのまをいひ

されいひま 物にすのまをいひ

されいひま 物にすのまをいひ

されいひま 物にすのまをいひ

されいひま 物にすのまをいひ

されいひま 物にすのまをいひ

されいひま 物にすのまをいひ

されいひま 物にすのまをいひ

されいひま 物にすのまをいひ

されいひま 物にすのまをいひ

されいひま 物にすのまをいひ

されいひま 物にすのまをいひ

されいひま 物にすのまをいひ

されいひま 物にすのまをいひ

されいひま 物にすのまをいひ

されいひま 物にすのまをいひ

されいひま 物にすのまをいひ

されいひま 物にすのまをいひ

されいひま 物にすのまをいひ

じうゆり 住吉の妻 白鳩女と
父の神に嫁し早くと継母のついで
ふくと早くと成すま

まてこのやうそ 父の子 形なり
あつたつたおとんと おのの玉 喜れ
方りの海にうとまらぬ

ほのむら おのの玉 娘のちつと
ひとま おのの玉 娘のちつと
まておのの玉 おのの玉 娘のちつと

あつたつたおとんと おのの玉 喜れ
まておのの玉 おのの玉 娘のちつと
おのの玉 おのの玉 娘のちつと

おのの玉 おのの玉 娘のちつと
おのの玉 おのの玉 娘のちつと
おのの玉 おのの玉 娘のちつと

おのの玉 おのの玉 娘のちつと
おのの玉 おのの玉 娘のちつと
おのの玉 おのの玉 娘のちつと

おのの玉 おのの玉 娘のちつと
おのの玉 おのの玉 娘のちつと
おのの玉 おのの玉 娘のちつと

おのの玉 おのの玉 娘のちつと
おのの玉 おのの玉 娘のちつと
おのの玉 おのの玉 娘のちつと

おのの玉 おのの玉 娘のちつと
おのの玉 おのの玉 娘のちつと
おのの玉 おのの玉 娘のちつと

おのの玉 おのの玉 娘のちつと
おのの玉 おのの玉 娘のちつと
おのの玉 おのの玉 娘のちつと

おのの玉 おのの玉 娘のちつと
おのの玉 おのの玉 娘のちつと
おのの玉 おのの玉 娘のちつと

詞也とのまあり一はつるやハ秋身と
てはよるをせしものみかこいさうこの
いとあつたかこいせもあがうあつた人とい
ちねたま

あつたなり 不幸 不幸のな

いふあつて ふりけりいふとまのつね人
の公しまうとたたらあつた

あつたなり 或るまは卒突と源房

あつたまは いふいふとまははあつた

いふまは 今な

あつたなり 玉あつたなりと大

あつたなり 大あつたなりと大

の善とりのな

あつたなり まいふとまははあつた

あつたなり いいふとまははあつた

あつたなり いいふとまははあつた

あつたなり いいふとまははあつた

あつたなり いいふとまははあつた

あつたなり いいふとまははあつた

あつたなり いいふとまははあつた

あつたなり いいふとまははあつた

あつたなり いいふとまははあつた

あつたなり いいふとまははあつた

あつたなり いいふとまははあつた

あつたなり いいふとまははあつた

らうりて 源成君 女 竹川 女 竹川 女

け物緒 元盛 者必表の理とありたり夕
教上不幸ありけし君とてこれ海子あり夕

兼香 教 元盛 教の 元盛 教の 元盛 教の 元盛 教の

うと養うて直上の口しんきれと女衣の
装束とありて退出とありて玉うはれ君

また女衣 或 女衣の 或 女衣の

公の 公 の 公 の 公 の 公 の 公 の 公 の

中ま 秋 女也 秋 女也 秋 女也 秋 女也

けまの女衣 兼香 教の 兼香 教の 兼香 教の 兼香 教の

左に 左 の 左 の 左 の 左 の 左 の 左 の

東ま女衣 兼香 教の 兼香 教の 兼香 教の 兼香 教の

竹川 竹川 の 竹川 の 竹川 の 竹川 の 竹川 の 竹川 の

竹川はしはしるはれは竹川はし権ごんの更

踏ふみの母ははははれはのははははれは

とくははれはははれはははれはははれは

ひはれはははれは

母ははははれはははれはははれはははれは

玉たま警けいの方かたははれはははれはははれは

ははれはははれはははれはははれは

あはれはははれはははれはははれは

不ふへあはれはははれはははれはははれは

飯い釋じやくののははれはははれはははれは

踏ふみ方かた推おし系けいのの事ことをを定さだららととわわりりかからら

ゆゆ後ごははれはははれはははれはははれは

ははれはははれはははれはははれは

ありて推おし系けいははれは

中ちゆうははれはははれはははれはははれは

源げん氏し君きみははれはははれはははれは

ははれはははれはははれはははれは

ははれはははれはははれはははれは

ははれはははれはははれはははれは

ははれはははれはははれはははれは

ははれはははれはははれはははれは

ははれはははれはははれはははれは

ははれはははれはははれはははれは

ははれはははれはははれはははれは

ははれはははれはははれはははれは

ははれはははれはははれはははれは

ははれはははれはははれはははれは

ははれはははれはははれはははれは

ははれはははれはははれはははれは

ははれはははれはははれはははれは

ははれはははれはははれはははれは

ははれはははれはははれはははれは

ははれはははれはははれはははれは

おれらといはげ思ふをよ
かりけし鴨の子とかりけしうもるは子よ
しきりぬ言通也

おれらといはげ思ふをよ
かりぬかといはげ思ふをよ
しきりぬ言通也

おれらといはげ思ふをよ
かりぬかといはげ思ふをよ
しきりぬ言通也

おれらといはげ思ふをよ
かりぬかといはげ思ふをよ
しきりぬ言通也

おれらといはげ思ふをよ
かりぬかといはげ思ふをよ
しきりぬ言通也

おれらといはげ思ふをよ
かりぬかといはげ思ふをよ
しきりぬ言通也

おれらといはげ思ふをよ
かりぬかといはげ思ふをよ
しきりぬ言通也

おれらといはげ思ふをよ
かりぬかといはげ思ふをよ
しきりぬ言通也

おれらといはげ思ふをよ
かりぬかといはげ思ふをよ
しきりぬ言通也

おれらといはげ思ふをよ
かりぬかといはげ思ふをよ
しきりぬ言通也

おれらといはげ思ふをよ
かりぬかといはげ思ふをよ
しきりぬ言通也

おれらといはげ思ふをよ
かりぬかといはげ思ふをよ
しきりぬ言通也

おれらといはげ思ふをよ
かりぬかといはげ思ふをよ
しきりぬ言通也

おれらといはげ思ふをよ
かりぬかといはげ思ふをよ
しきりぬ言通也

おれらといはげ思ふをよ
かりぬかといはげ思ふをよ
しきりぬ言通也

物ねりりりり 双紙の初也

まはらうの君月一 書いれさし又未

よむねれま也 げ又折多し

いんせうさ 作者初也

らたささ ちたささの事也

まらささのね ちのたさしたじやめ

あらしさ玉うさささくれか也

ふらしてみさうらたさまの 冷泉院一みこ

のちうさまのいも也

あまのささ 女の名さとうま也

この女はささ 内裏して弘慶殿の也

宇ねの中ねい 夕音あやうらう人のれい

つあささ也

あふさたさわ

あふさたさわ 女奥也

あふさたさわ かりにさくたあささ

あふさたさわ ちまき存れま也あふさ

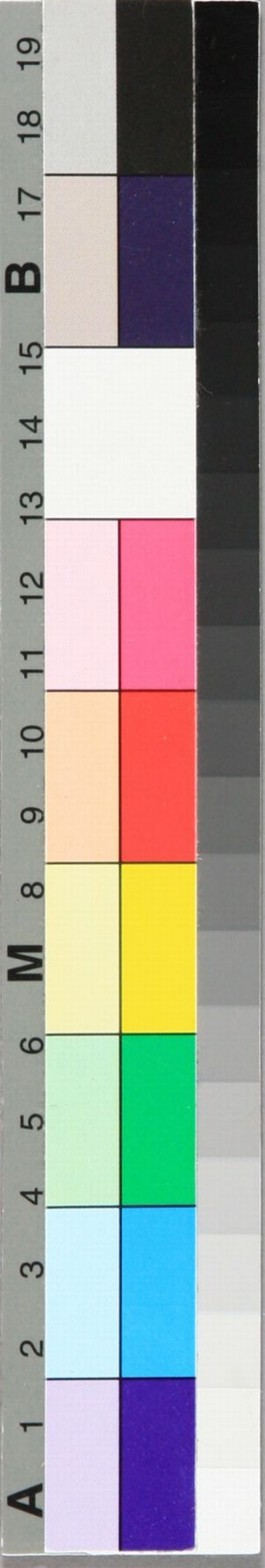
あふさたさわ 早下の也

あふさたさわ け女御の也

あふさたさわ 思ふさな也

あふさたさわ 夕霧れ也

あふさたさわ 近江君とささ



Handwritten text on a dark wooden slip, likely a manuscript fragment. The text is written in vertical columns from right to left. The characters are in a traditional Chinese script, possibly a form of cursive or semi-cursive. The text is difficult to read due to fading and the dark background. The visible characters include '物' (object) at the top, '一' (one) in the middle, and '物' (object) at the bottom. There are also some faint characters that appear to be '物' and '一'.

